

富士火山地質図 第2版 (Ver. 1)

Geological map of Fuji Volcano, 2nd Edition (Ver. 1)

高田 亮・山元孝広・石塚吉浩・中野 俊 (地質情報研究部門)

Akira Takada, Takahiro Yamamoto, Yoshihiro Ishizuka and Shun Nakano

(Institute of Geology and Geoinformation)

この研究資料集は、地質調査所（現在の産総研地質調査総合センター）から発行された富士火山の地質図（津屋，1968；中野・石塚編，2002）を全面的に改訂する地質図である。地質調査総合センターでは、1999年から高田及び山元が富士山南西側にて地質調査を開始した。その後、2000-2001年の富士山直下における低周波地震発生を契機に、各研究機関・大学は各種の観測機器を富士山周辺に設置・展開しはじめた。「地質の調査」を業務とする地質調査総合センターは、富士山全域の現地調査による地質図全面改訂をめざすことを決め、2001年からは新たに石塚及び中野が参加した。これらは主に所内の地質図幅作成の研究（現在は「陸域地質図プロジェクト」）の一部として実施されてきたほか、科学技術振興調整費による「富士火山の総合的な研究（代表：藤井敏嗣東京大学教授）」を利用した調査などにも参加してきた（高田ほか，2007；石塚ほか，2007，など）。

これまでの研究成果のうち、一部地域の地質図や層序はすでに公表されている（山元ほか，2007，2011，など）。富士山は、火山噴火予知連絡会により「火山防災のために監視・観測体制の充実等の必要がある火山」の1つと選定されている。富士山が噴火した場合の社会的影響の大きさから、社会や学界などからは最新知見に基づく富士火山全域をカバーする詳細な地質図の早急な公表を求められてきた。そこで第一段階として、ほぼ全域の地質図及び凡例を電子ファイルとして作成、研究資料集として登録し、公開することとした。ただし検討中の課題も多く、今後も修正加筆されていくものである。

津屋（1968）では富士火山を古富士及び新富士に、さらに新富士を旧期・中期・新时期と地質区分がなされてきた。また、古富士の下位には小御岳火山も存在する。その後の研究でも基本的にこれらの名称を踏襲する例は多い。また、町田（1964）では降下テフラの編年から古期富

士テフラ群と新期富士テフラ群に区分したが、これらは火山本体を研究した津屋（1968）とは区分基準が異なっており、その後の研究においてさまざまな混乱が生じていた。これらの名称の混乱を解消するため、山元ほか（2007）は新たな火山体区分を提唱し、富士火山（津屋の古富士及び新富士）を下位より星山期、富士宮期、須走期に区分した。さらに須走期を a, b, c, d に細分した。本研究資料集はこの定義を用い、地質図における各噴出物の略称に、H, F, Sa, Sb, Sc, Sd をつけた（例えば、Sd-Arm）。

この研究資料集に含まれる地質図（Ver.1）は解像度 150dpi のラスターデータである。用いた基図の縮尺は 1/25,000 である。ディスプレイ上では縮尺以上に拡大表示できるが、地質界線や断層線、火口位置等の位置精度はない。また、地質境界線等に関して一部は破線を用いているが、伏在、推定、位置不正確等を区別していない。

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平25情使, 第1000号)

本研究資料集（CD-ROM）には以下が含まれる。

- ・ 概要（overview.pdf）
- ・ 富士火山地質図（1/25,000）（fuji.jpg）
- ・ 凡例（legend.pdf）
- ・ メタデータ（metadata.xml）

引用文献

石塚吉浩・高田 亮・鈴木雄介・小林 淳・中野 俊（2007）トレンチ調査から見た富士火山北-西山腹におけるスコリア丘の噴火年代と全岩化学組成。地調研報, vol.57, p.357-376.

町田 洋(1964)Tephrochronology による富士火山とその周辺地域の発達史(その1,その2). 地学雑, vol.73, p.93-308, p.337-350.

中野 俊・石塚吉浩編（2002）富士火山地質図（5万分の1）CD-ROM版。数値地質図 G-9, 産総研地質調査総合センター。

高田 亮・小林 淳（2007）富士火山南山腹のスコリア丘トレンチ調査による山腹噴火履歴。地調研報, vol. 57, p.329-356.

津屋弘達（1968）富士火山地質図（5万分の1）。特殊地質図 No. 12, 地質調査所。

山元孝広・石塚吉浩・高田 亮（2007）富士火山南西山麓の地表及び地下地質：噴出物の新層序と化学組成変化．荒牧重雄ほか編，富士火山，山梨県環境科学研究所，p.97-118.

山元孝広・中野 俊・高田 亮・小林 淳（2011）富士火山東斜面における最新期火山噴出物の層序．地調研報，vol.62， p.405-424.

この研究資料集の引用例

高田 亮・山元孝広・石塚吉浩・中野 俊（2014）富士火山地質図 第2版（Ver.1），地質調査総合センター研究資料集，no.592，産総研地質調査総合センター．

Takada, A., Yamamoto, T., Ishizuka, Y. and Nakano, S. (2014) Geological map of Fuji Volcano, 2nd Edition (Ver.1). GSJ Open-File Report, no.592, Geological Survey of Japan, AIST.

2014年3月31日